



平成 30 年 3 月 20 日

保護者各位

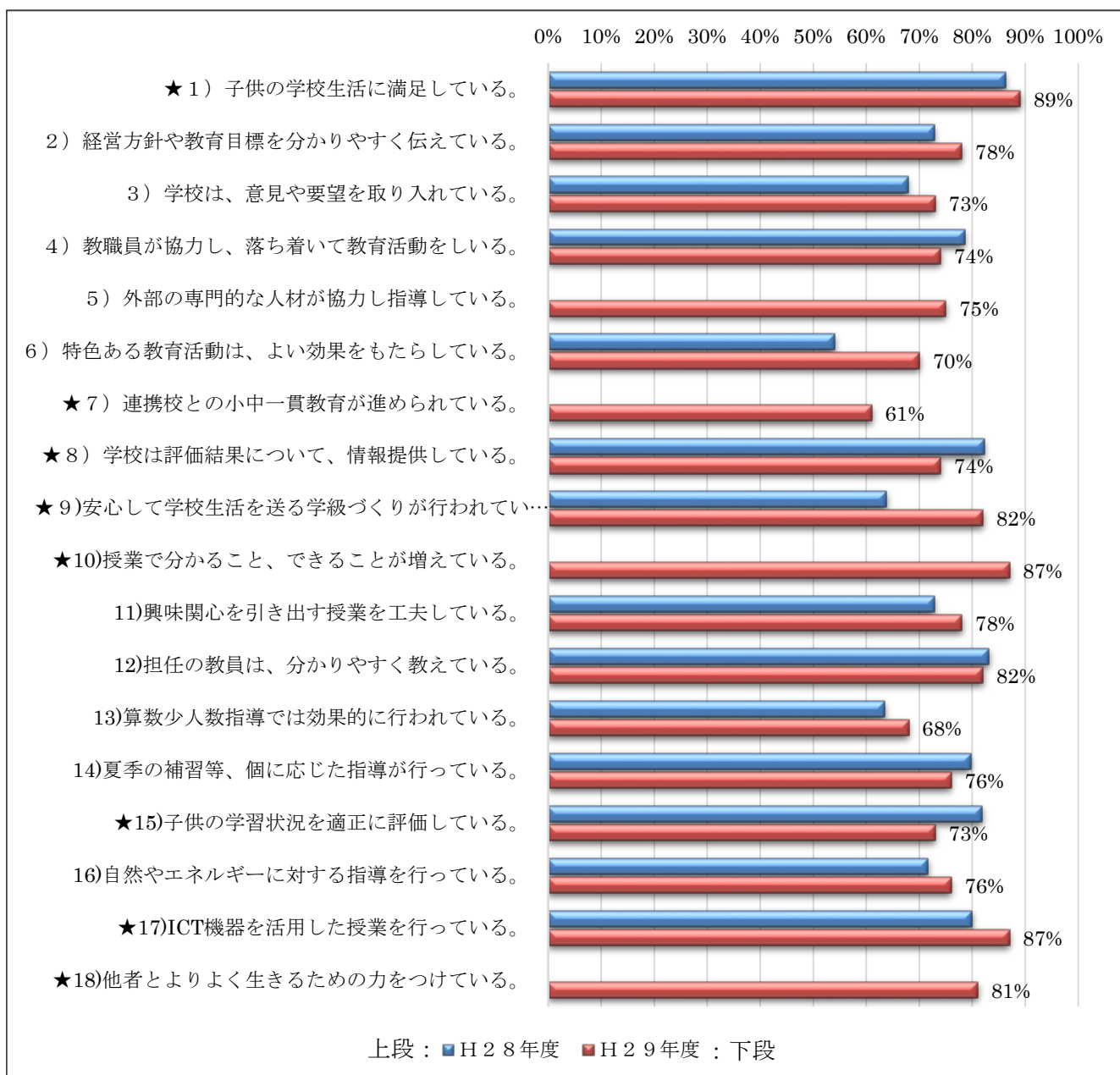
杉並区立西田小学校

校長 小堂 十

### 「平成 29 年度杉並区教育調査」および 「西田小よりよい学校づくりアンケート」集計結果について

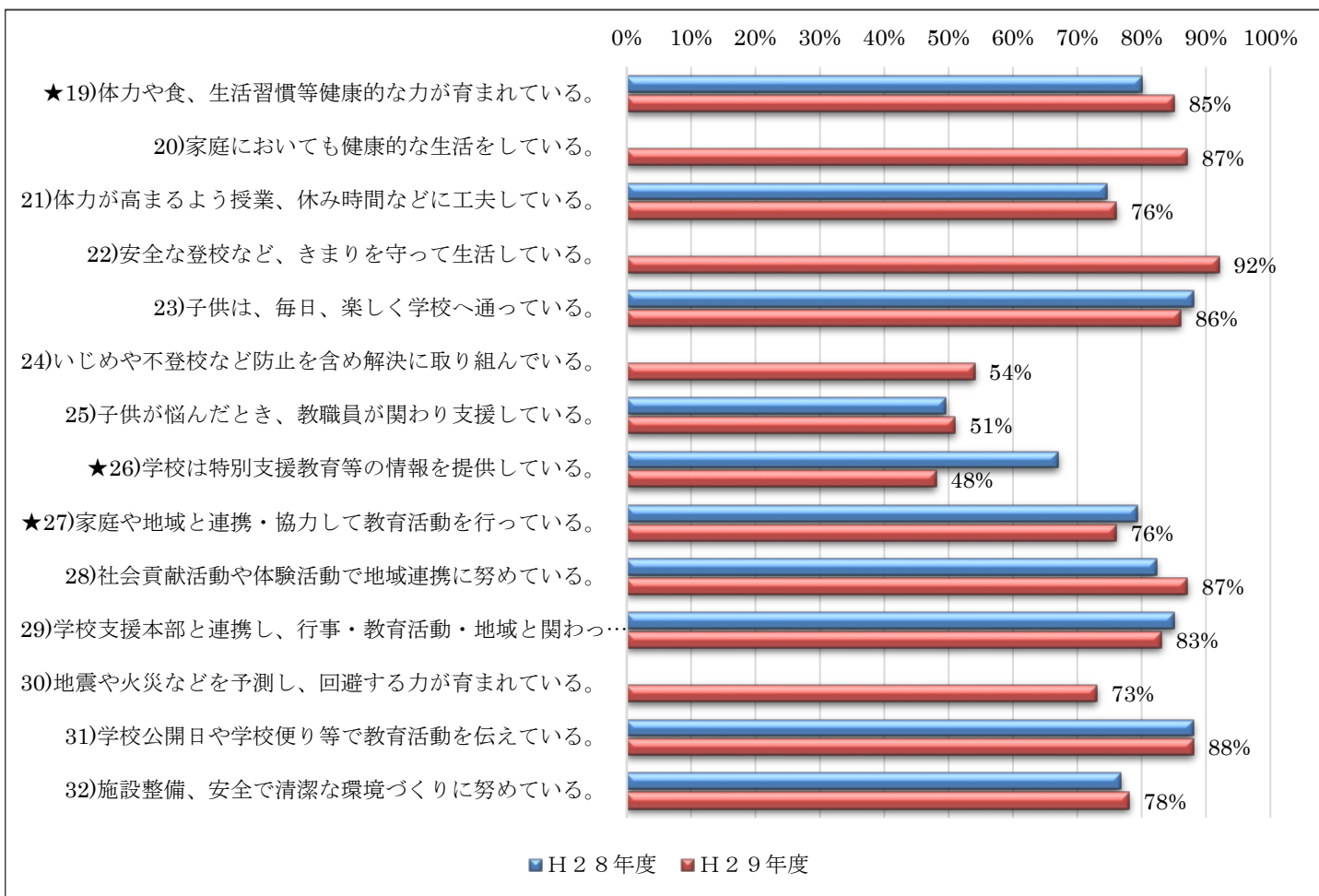
昨年末に実施しました杉並区教育調査と本校の「よりよい学校づくりアンケート」の集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。ご多用の中、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いございました。評価をいただいた各項目についてはアンケート結果を真摯に受け止め、来年度の学校計画（教育課程）作成の資料とさせていただきます。

#### アンケート結果（保護者の肯定率）



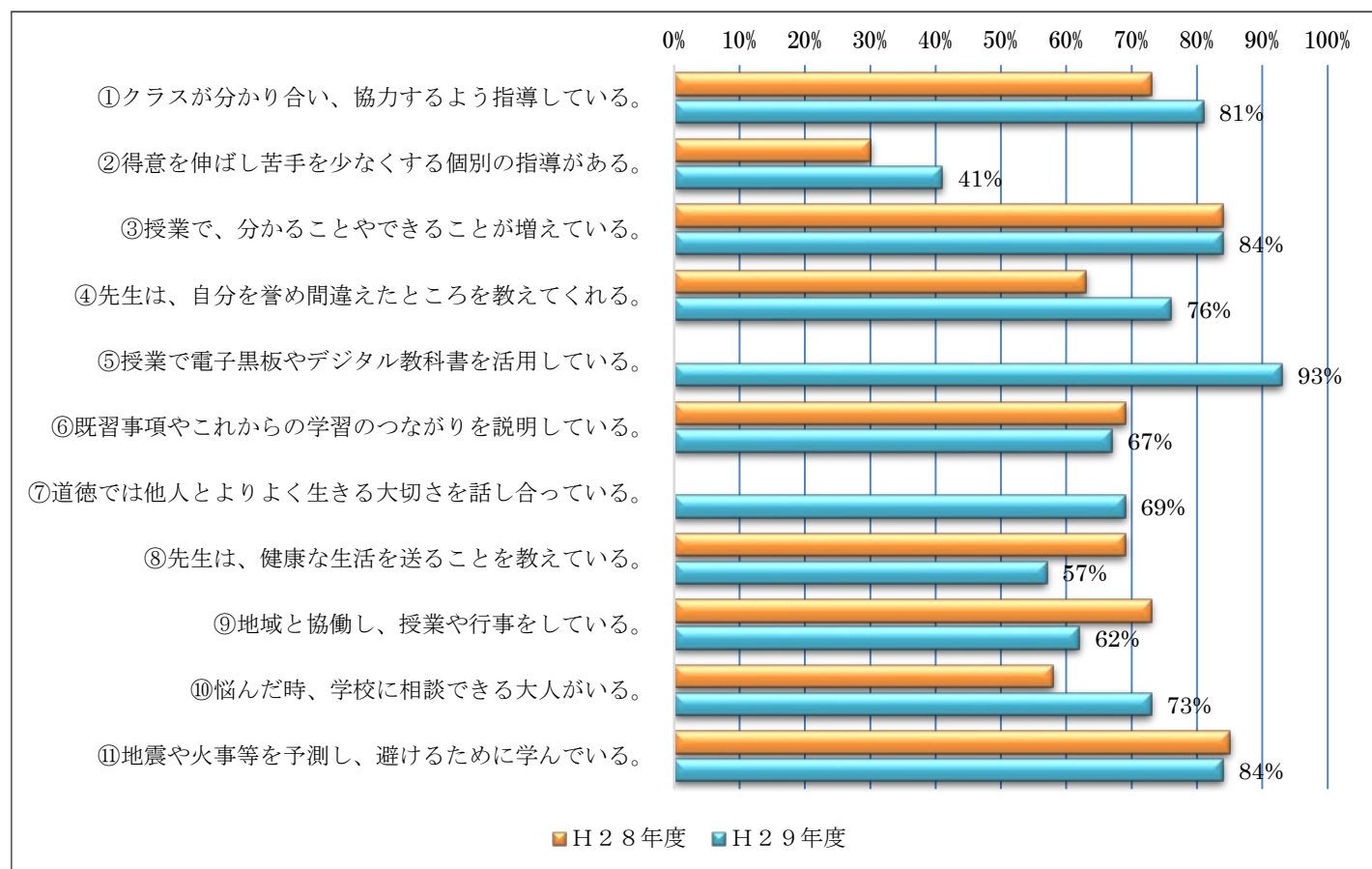
★のマークの項目は区の教育調査の項目です。

\*裏面は結果の考察が記載されています。



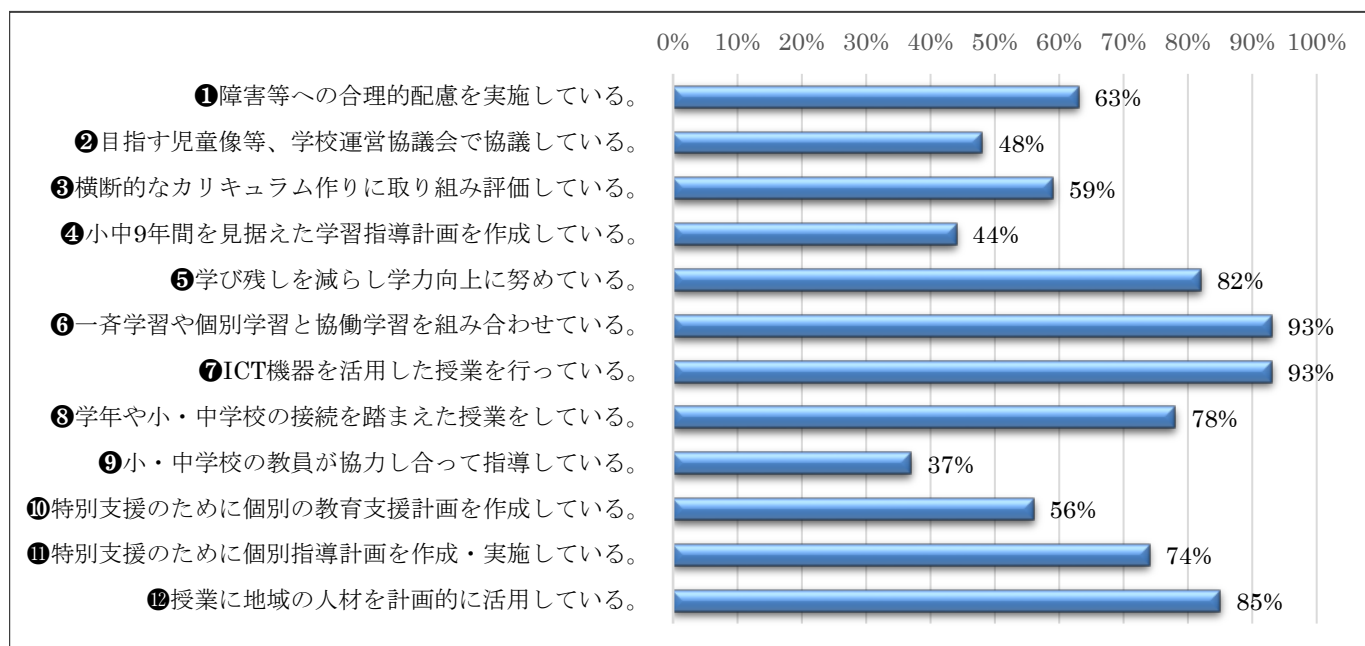
#### アンケート結果（５・６年児童の肯定率）

※すべて区の教育調査の項目です。



## アンケート結果（教職員の肯定率）

※すべて区の教育調査の項目です。



## 「杉並区教育調査」ならびに「よりよい学校づくりアンケート」集計結果を受けて

今回の保護者の提出率は、全児童数に対して 79%であり、保護者の教育への意識が非常に高いことを示しています。平均肯定率は、区の項目が平均 77%で、昨年度より 10%も向上しています。今年 10 月より始まった学校運営協議会では、この教育調査の結果を取り上げ検討しました。委員の方の意見を踏まえながら考察したものをまとめましたのでご報告します。

### 【学校経営について】

- ◆No.1) 「子供の学校生活に満足している」という保護者が 90%近くになり、非常に高い肯定率となりました。
- ◆No.2) 経営方針でユネスコスクールとしての取組が保護者に徐々に伝わってきている結果と思われる。昨年度より 5%の増加となり、78%の肯定率となりました。またNo.6) では、本校の特色ある教育活動での効果について、70%の保護者は効果があると評価しました。昨年度より 16%の上昇になります。ESD の導入が保護者から高い評価を受けました。
- ◆No.7) 小中一貫教育に関する新たな評価項目のため、今年度のみのデータとなります。連携校との小中一貫教育については、5・6 年の保護者の肯定率が高く、70%近い肯定率となります。4 年までの肯定率と大きく異なるのは、保護者の関心と 5・6 年が実際に関わる場が多いためと考えられます。しかし、今年度は、中学生との話し合い活動を行うなど新たな取組を取り入れましたが、来年度はさらに活動を工夫する必要があると考えます。

### 【学習指導について】

- ◆No.11)～13) 学習に対する評価が若干上がってきています。引き続き努力し、質の高い授業を行えるようにしていきます。保護者も授業に関わることができるような工夫をさらに考えていきたいと思います。

- ◆No.17) ICT 機器の使用については児童の結果同様高い肯定率でした。教員だけでなく、児童が発表する際に活用したり、相互交流する場を ICT 機器で作ることができるようになったりしたことも要因と思われます。



## 【子供の学校生活（生活指導・教育相談）について】

- ◆No.24) 「いじめや不登校」については新たな質問項目としたため、新たなデータとなります。しかし例年、いじめや不登校については肯定率が低いのが現状です。内訳をみると、「分からない」と答えた保護者が16%おり、「どちらでもない（普通）」23%、「あまり思わない」「まったく思わない」の否定的な意見は7%でした。

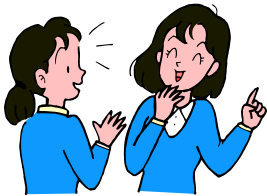


今後もいじめについては、未然防止、早期発見を目指し努力していきます。いじめ防止のアンケートの実施、スクールカウンセラーとの面接の他、児童による活動などさらなる手立てを工夫します。

- ◆No.25) 子供が悩んだときの教職員の支援については、昨年度と同様51%と低い肯定率でした。「分からない」が12%、否定的な回答が13%でした。子供が困ったときに相談を聞いてもらえないという声には真摯に受け止め、担任をはじめとする複数の教員、養護教諭、SCが相談にのれるよう努力していきます。※児童の結果⑩参照

- ◆No.26) 特別支援に関する情報提供については、19%減少し48%の肯定率となりました。特別支援教室（にした教室）の紹介や特別支援教育全般に関する情報を毎年、継続的に発信し、保護者も学ぶ機会を作っていく必要があると考えます。来年度は早いうちに説明会等を設定したいと考えます。

## 【特色ある教育活動・体験活動を通しての地域との連携について】



- ◆No.27)～No.29) 肯定率の若干の上下はあるものの、昨年度とさほど変化は見られませんでした。おおむね80%前後の肯定率と捉えることができ、おおむね良好と考えられます。社会貢献活動は6年の難民支援活動や募金活動などが広く周知され評価されたものと考えます。

## 【児童のアンケートの結果から】

- ◆No.④ きめ細やかな指導について問う項目です。肯定率からは全体としてきめ細やかな指導をしていると受け取れます。特に5年の肯定率が83.7%という高い結果でした。子供たちのよさを誉めつつ、きちんと指導しながら、子供との信頼関係をより高める努力をしていきたいと考えます。
- ◆No.⑥ 指導の系統性を理解させているかを問う項目です。本校は、ユネスコスクールとして各教科で学んだことを生かして考えたりまとめたりする活動を日頃より行っていて、児童の67%の肯定率は、日頃より教員が意識して指導している結果と考えます。特に算数少人数のように既習事項の確認を重視しながら進めることを今後も心掛けたいと思います。
- ◆No.⑩ 学校に相談できる大人がいるかを問う項目です。昨年度より15%向上し73%となりました。ただ、本当に必要としているときに活用することができているかは、この結果のみでは判断できないと考えます。今後も相談体制の充実を工夫したいと思います。

## 【教員のアンケートの結果から】

- ◆No.① 合理的配慮についての対応については、63%の肯定率でした。本校では、障害に対する合理的配慮についての要求があった場合は、校内委員会で検討して対応していますが、にした教室が週1日、学習支援教員は週2日しか来校できないため十分対応できていない現状が、結果に反映していると考えます。No.⑪では個別指導計画の作成・実施は74%と高い肯定率となりました。
- ◆No.② 学校運営協議会は10月より始まったばかりです。学校運営協議会としては、これから学校経営や学校運営についてご意見をいただき、生かすことができると考えます。
- ◆No.④ 9年間を見据えた一貫性ある学習指導計画の作成という点で「どちらでもない」「やや否定」が56%となりました。小中一貫性ある指導は追求過程であると考え、改善を進めていきます。